



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内373)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No. 563  
発行責任者 所長 河合 広映  
発行日 令和4年 5月20日  
題 字 山田 恭正 教育長



## 『令和四年度 駄知中学校入学式』

撮影 駄知中学校  
福富泰地 先生

### 新たな出発の日

土岐市教育研究所長 河合 広映

庁舎に向かう朝の出勤時、あるラジオ番組で毎朝7時すぎに十干（じっかん）や十二支など、暦をもとに今日という日を紹介するコーナーが始まります。運転しながら何気なくその話を聞いていると、今日はどんな日なのか、や、どんなことに気をつけたらよいかをアドバイスしてくれています。これまで、あまり気にしたことはなかったのですが、今日という一日を改めて考えることは大切なことだと、ふと思うきっかけになっています。

人には記念日があります。入学式、卒業式、誕生日など。記念に残る日を個人の〇〇記念日としてお祝いをしている人もいるかもしれません。そんな日には、「いい天気になるといいなあ」とか「いい日になるといいなあ」などとい念じてしまいます。

4月6日（水）、この日、土岐市では小中学校の入学式が行われました。園から小学校へ、また小学校から中学校へと新たな出発の記念の日として、新入生たちはわくわくしながらこの日を迎えたことでしょう。保護者も同様です。わが子の成長と新たな門出の記念日として何日も前から準備を始めていたことと思います。6日の朝は快晴で、今日はいいい日になりそうだと予感させてくれる一日の始まりでした。この日には、

午前中には中学校の入学式、午後からは小学校の入学式に参加をさせていただきました。中学校では、まだ着慣れない真新しい制服に身を包んだ1年生たちが、少し大人びた表情で開式を待つ姿が印象的でした。小学校では、会場へ入ると小さな椅子が並べられ、これから入場してくる新入生を歓迎しているかのようでした。新入生の児童生徒は緊張している様子で、入場の時には表情に硬さも見られました。しかし、シャンと前を向いて胸を張って体育館に入場し、自席に座ったあと、ちょっとほっとして笑みを浮かべた表情からは、新入生らしいあどけなさも垣間見ることができました。新型コロナウイルスの影響で縮小を余儀なくされた式でしたが、中学校も小学校の入学式も児童生徒たちは、最後まで姿勢を崩すことなく話を聞き、凛とした空気の中で記念の式典が行われました。

小中合わせて851名の新入生が新たな出発の時を迎えました。そして、教職員の皆様にとっても同時に新たな出発の時となりました。一期一会という言葉の通り、この出会いの日を新たな仲間たちとのよい記念の日として、気持ちのよい一年のスタートを切ってほしいと願っています。これから一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

---

---

# 今こそ 保幼小中の連携を

～切れ目のない積みあげ教育～

土岐市教育長 山田 恭正

---

---

小中の接続をテーマに設定した昨年度の西陵中学校区の研究発表会では、下石小学校・妻木小学校での学び方の指導が見事に西陵中学校へつながり、規律ある学びの姿を観ることができました。

一貫教育のスタートをきった濃南小中学校では、中学生と小学生が楽しそうにふれあう姿が印象的でした。

「中一ギャップ」「小一プロブレム」の解消が叫ばれて久しく時がたっていますが、近年、義務教育学校や小中一貫教育校・連携校の制度化と設立が急速に進んでいます。

土岐市における保幼・小中学校間の連携について考えてみます。

## 《接続期における実態と課題》

保幼から小へ、小から中へのどちらの接続時にも起こる一番の変化は、遊びから学習中心に変わることや授業形態の違いが出てくること、また、指導者の接し方や生徒指導的な扱いの違いなどがあげられます。

それらの違いから、学校生活での適応ができず、不登校の状況が生まれたり人間関係の構築に問題を生じることがあります。

一概に言えませんが、土岐市における中学生の不登校数は、小学校時より約1.5倍に増えています。

## 《連携でめざしたいこと》

子どもは、保幼・小・中学校と順に制度や仕組みの違う環境で育っていきます。そのことはこちら側の都合で子どもの望んでいることではありません。ですから、その成長に適度抵抗こそ必要なものの、過重な負担や過度な適応を子

どもに要求することになります。従前から、環境の変化を自分の力で乗り越えていくことが力を付けていくこととしていた面もあります。

しかし、これからは安心・安定した小・中学校9年間の学びと育ち保障するために接続を円滑にしていく必要があります。

その具現化をめざし、市の方針と重点に校種間連携のキーワードを示すこととしました。

土岐市は、泉と西陵中学校区が2小学校から進学、その他は1小学校からの進学で小学校が分割して進学することはありません。そのことをメリットととらえ、下記のような具体的に取り組みに挑戦してみてください。

## 《小・中学校の接続について》

- ・まずは、中学校校区で「(仮称)円滑接続検討委員会や連携委員会」が設置できないか。
- ・継続的に子どもをとらえ、みていくための資料作成ができないか。(キャリアパスポート、タブレット等の活用)
- ・中学生と小学生との意図的・計画的な交流活動ができないか。
- ・小中の交換授業や出張授業等々、思い切った取り組みはできないか。(兼務の申請等)

## 《保幼・小学校の連携について》

- ・双方の職員で研究会などを開催し、とにかくコミュニケーションがとれないか。
- ・園児と小学生との交流の場を計画的に設定できないか。
- ・子どもの成長記録など、小学校の指導に参考となる情報を送れないか。
- ・(保幼)時間を意識しながら生活できないか。
- ・年長期9月から小学1年の4月につながるような接続カリキュラムが双方で作れないか。

## 教育の「不易と流行」を見据え、ともに学び、高め合う校長会

土岐市小中学校校長会 会長 三宅 裕一

### 1 はじめに

引き続き新型コロナウイルス感染防止に配慮する中での教育活動が続いています。そんな中、夢と希望に溢れ、きらきらと輝く瞳の新1年生を含め、小学生2706名、中学生1430名、合計4136名の児童生徒で新年度がスタートしました。10年前と比べると約500名、20年前と比べると約1600名の減少です。少子化は確実に進んでいますが、将来の土岐市を担っていく人材を育てるために、一人一人の学びと成長を願い、私たちは教育を進めていかなければなりません。

### 2 コロナ禍の対応

昨年度もコロナ禍が、私たちに多くの深い問いを投げかけてきた一年でした。しかし、令和2年度と違っていたのは、様々な経験値が我々にもあったことです。各学校ではそれら経験を生かし、各校長のリーダーシップの下、保護者や地域の理解を得ながら、学校経営を推し進めてきました。常に最適解を探究する営みが必要でしたが、それを校長会で支え合ってもきました。責任のあるリーダーとして、固定観念に縛られることなく、知恵を出し合いながら、創造的に捉え、考え判断し、活動してきました。

今年度も引き続き、感染拡大予防に係る諸対応については、刻一刻と変化する状況を冷静に見極め、最善の対応が求められます。朝令暮改という言葉のように、朝、計画したことが、夕には異なった対応となることへの学校（校長）の冷静な判断力、決断力、実行力などが問われる日々はこれからも続きます。そして、諸課題を正面から受け止めつつ、児童生徒の真の幸せを願い、日々の学校生活の中で、今まで以上に満足感・充実感（市教育方針：「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる）のある教育活動を生み出していく必要があります。

### 3 土岐市校長会の方針

土岐市校長会では、本年度、上記の運営テーマ

を掲げ、土岐市の小・中学校の教職員と力を合わせて、ともに学び合い続ける姿勢を大切にしていきます。そのために、次の三つの観点で活動していきます。

#### ① トップリーダーとしての意識と必要な資質・能力の獲得意欲を高め合う組織的な活動

◇「三部会」による学校マネジメント研修

＊三部会：課題検討部会、人材育成部会、学校経営部会

◇「小・中学校部会」による具体的取組の検討

#### ② 教育委員会をはじめとする関係機関と連携を密にした運営

◇教育委員会事務局と校長会役員との定期懇談

◇各種団体からの連絡や各種会議への参加による情報共有

#### ③ 児童生徒が身に付けるべき資質・能力の育成に資する教育活動の改革

◇「with コロナ」の教育課程の工夫改善

◇時代の流れを汲んだ教育活動の推進

→ICT教育、学校運営協議会

### 4 リーダーとして

「改革」することこそ「善」であるという風潮があります。確かに「改革」という言葉には、現状を改めるという意味において、「よりよくする」意味に通じ、「進歩的」な語感があります。しかし、すべて「改革」は「善」かといえども必ずしもそうとも言えないのではないのでしょうか。『徒然草』の第二百七段に、「あらためて益なき事は、あらためぬをよしとするなり」として、益なき改革を否定している言葉がありますが、「改革」が「益」になるかどうかを見極める力こそ、今の時代に求められる管理職の力だと思います。難しいことではありますが、我々土岐市校長会は、常に教育の「不易と流行」を見据えつつ、児童・生徒に責任を持つ管理職としての自負と慎重かつ熟慮をもって教育改革に対峙していきたいと思えます。土岐市の子どもたちの笑顔での学校生活を願って・・・







## 変化は改善の原石



濃南小・中学校長  
本多 直也

日々、学校は動いています。心地よい風ばかりでなく、逆風の中を進まなくてはならない状況もあります。校長はそんな時、どこをみて、何をするのか、その責任があります。教育の動向や学校の財産を大切にしながらも、一步一步進む子ども、職員を大切にしなければなりません。

今、世の中は私たちが戸惑うスピードで変化しています。そこへコロナが追い打ちをかけています。学校教育も呼応して改善すべきは躊躇なく取り組む必要があります。これからの学校はどうあるべきなのかを、児童生徒の指導にあたる先生も一緒になって、考えていただけたらと思います。

### 1 「みんな一緒」から「自分で決める」指導へ

ここ2年間、修学旅行の実施にどここの学校も苦労しました。そこでは、安全を期すために事前の参加承諾書なるものが登場してきました。修学旅行へ「行きますか?」「行きませんか?」シンプルな質問ですが、学校教育にとっては大きな変化でした。それまで、修学旅行を含め学校行事は全員が参加するもの、教室に入りにくい子どももなんとか、これを機会に仲間と生活ができるようにとあの手この手でアプローチしてきました。そして、大人になり、振り返った時、「あの時の先生や友だちに元気をもらった。」と大げさにいえば人生の転機にも感じてくれることもありました。

部活動の任意加入、通信制教育等進路先の多様化、オンライン授業・・・

これまで、「みんなで」「力を合わせて」など学校の中で数多く使われてきた言葉や働きかけの意味や内容を再構成する時期にきています。学校経営方針からはじまり、学校教育計画、各種全体計画、そして、各担当部署での指導や取り組みについて、当たり前のように使っていたことが、本当なのかを明日の教室を想像して考えたいものです。

### 2 「担当」から「総力戦」へ

一方で、先生方の仕事の進め方はどうでしょうか。少し前から「チーム○○」というフレ



ーズをよく見聞きするようになりました。物事を進めるときに複数でかかわりあいながら行うものです。

校則見直しの中での服装等の在り方、PTA への参加の仕方・・・

子どもたちばかりでなく、保護者も含め社会全体が多様な価値観の容認が必要となっている中、担当一人ではなく、いくつかの考えをもとに最適解を求める、時代にあった大切なシステムだと考えます。

でも、全てを複数人で協議してからでは効率が悪く、スピード感もでません。これまで、校務分掌は経験や得意分野等により、特定の先生に集中することがありました。いわば、人に仕事を与える考えです。これを分掌の内容を明確にしたうえで、初任者であれ、ベテランであれ担当者として原案を作成し、部会等で最終提案をする。一人一人が学校の運営に参画し、意欲をもって子どもたちの教育の質を高める。仕事に人を割り振る考えを取り入れたらどうでしょうか?

そこには受け身ではなく誰もが主体者となれる仕組み、まさに「チーム学校」があると思います。

### 3 「ブラックイメージ」から「夢あふれる」職員室へ

私たちは、これまで、夢や希望を大切にするキャリア教育を進めてきました。職場体験で生き生きとして活躍する姿をみて、こちらも元気をもらうことが幾度となくありました。ところが、教員採用試験の倍率低下等を取りあげ、学校には様々な負のイメージが言われています。

超過勤務の問題、次々と湧き上がる教育課題・・・

問題はわかるのですが、誰が解決するのでしょうか。法律や制度上クリアしなくてはならない課題はあるにしろ、その現地にいる私たちが改善をしようとしなくては、何も始まりません。自分の職業にやりがいと誇りをもつことは、キャリア教育の基本です。やらされ感が先行し、自らブラックイメージのレッテルを貼っていることはないでしょうか。職場改善プロジェクトは「私たちの」学校を作る希望になります。「夢」は自分たちで創り上げるものと思います。

新学期、希望をもって入学・進級した子どもたちの中で、ゴールデンウィーク明けの頃から、ちょっと息切れや不適應の様相が見られる子が現れることがあります。

そんな学校に通いづらくなっている子どもが、元気を取り戻し自分らしく歩み始めるエネルギーをためるための居場所が浅野教室です。



私たちは、次の事を大切にしています。

- ・安心して生活できる姿をめざします。
- ・学校とのつながりを大事にします。
- ・自分のペースで学習することを支援します。
- ・他の通所生との関わりを大事にしています。
- ・保護者とのつながりを大事にしています。

昨年、浅野教室に一日でも通った子どもは16人。毎日通ってきた子、不定期で途切れた子、学校に戻っていった子、いろんな形の通所があります。でも、受け入れた以上、その子の気持ちや背景を理解して支援しようとやってきました。

浅野教室では、できるだけ子どもたちが受け身ではなく自分たちで考えて動く生活を目指し、様々な活動に取り組んでいます。その一つが「ティボール」です。ティボールは止まっているボールを打つので誰にでも打てるし、ピッチャーやキャッチャーが必要ないので少人数でもチームが組めるよさがあります。

野球に興味を示し始めた通所生がいたので、浅野教室でもこのティボールを取り入れ、やっていくうちに「大会をやろう。」という声があがりました。毎日、通ってくる子を中心に、自分たちでチーム決めをしたり誰でも楽しめるようにルールを決めたりして、近くの公園で大会を開きました。



子どもたちのエネルギーを貯めるには、「やりたい」ということを形にすること、そして「自分たちでやった」という自己肯定感に繋げることだと思っています。また、仲間と一緒にいると楽しい、と感じることが社会性にも繋がるはずです。

学校にも相談室や適応指導教室はあります。そこに通えている子どもはいいですが、学校そのものにしんどさを感じるようになったら、浅野教室が選択肢の一つとして考えてみて下さい。

また、浅野教室は「土岐市カウンセラー活用事業」の拠点として、臨床心理士が毎週木曜日に在室しており、以下の支援が可能です。

- ① 児童生徒や保護者のカウンセリング
- ② 教職員のカウンセリング
- ③ ケース会議での助言
- ④ 各種研修会での講師

特に、②「教職員のカウンセリング」として、教室で不適應を起こしている子どもの指導について、実際に学校を訪問して観察したり、支援の方法を助言したりすることができます。ぜひ、活用していただくとよいかと思います。

## 令和4年度 土岐市ICT教育推進目標

ICT機器の効果的な活用を通して、「子どもたちの主体的・協働的な学び」と「どの子もわかりやすい授業」を実現する

### 1 ICTに関するこれまでの取り組み

令和2年度途中からiPadが導入され、令和3年度は学校のICT環境が目まぐるしく変化した1年であった。令和3年度の土岐市におけるICT教育推進をまとめると以下のようになる。

#### 令和3年度のICT教育推進

##### ○ICT活用のためのハード、ソフトの両面での整備

- ・学習支援ソフト ロイロノート
- ・フィルタリングの設定
- ・デジタル教科書（数学、英語）
- ・大型TV、プロジェクタ、AppleTV
- ・Teamsを活用したオンライン研修
- ・タブレット利用の約束（持ち帰り時を含む）の作成
- ・情報モラル指導資料
- ・プログラミング教育に関する研修

各種マニュアルの作成や研修を実施し、先生が毎日授業で活用できるようになった。

各学校において、ICT推進担当の先生をはじめ、各先生の工夫により様々な活用方法が生み出された。その一方で、アンケート調査や実際に授業を参観し、次のような課題が明らかになってきた。

#### 令和3年度で明らかになった課題

- ・学校間、教師間でのスキルの差
- ・授業での活用の有効性

### 2 令和4年度のICT教育推進

土岐市のICT教育推進目標は上記のとおり「子どもたちの主体的・協働的な学び」と「どの子もわかりやすい授業」の実現を目指している。令和3年度の課題を受け、具体的な取り組みとして、どの学校、先生もICT活用に関して一定の水準に達するための指標を示すとともに、活用の事例を蓄積し市内で共有することに取り組む。

#### ICT活用に関する指標について

「学校におけるICTを活用した学習場面」（教育の情報化に関する手引書 文部科学省）を参考に、土岐市のICT環境に合わせて作成した。

#### 指標の一例

##### C 協働学習



- 子どもがタブレットの画面を見せあいながら、考え（作品等）を比較・検討し意見を整理できる。【C2】

#### ICT活用の事例の蓄積と共有

ロイロノートの市内共有フォルダを活用し、共有できるようにする。ICT教育推進委員の先生方には、各学校での実践の事例の積み上げをお願いしていく。





## 令和4年度 教育研究所の事業紹介

今年度、教育研究所が計画している事業や研修です。実施日等の詳細については今後変更する可能性があります。研修や事業について見通しをもって有効にご活用いただきたいです。

|         | 事業名・研修名                  | 詳細、実施候補日など                                                                                                                                                               |
|---------|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教職員研修   | 各種主任研修会                  | 教務主任研修会、生徒指導主事研修会など、職務に応じた研修を行います。                                                                                                                                       |
|         | 市初任者研修                   | 小中学校の初任者を対象に年2回(8月・12月予定)の研修を行います。                                                                                                                                       |
|         | 教職員資質向上サポート事業            | 小中学校の若手教職員(6年目まで)の授業力向上支援や業務遂行に関する相談を通して、教職員としてのキャリアアップにつなげます。                                                                                                           |
|         | マイプラン研修                  | 幼稚園教諭を対象に、個人の研究テーマに基づく研修を行います。                                                                                                                                           |
|         | サマーセミナー                  | 夏休み期間に ICT 教育や救急救命等の講座を行います。任意の参加講座です。                                                                                                                                   |
|         | プログラミング教育研修会             | 各小学校に専門講師を派遣し、教職員向けの研修講座を行います。また、中学校技術科教職員を対象に同様の研修を行います。                                                                                                                |
|         | 教育相談講演会                  | 不登校の早期発見や、その対応支援に関わる研修を行います。(8/24)                                                                                                                                       |
|         | ★【新規】次年度道計訪問研修会          | 前年度から取組や準備ができるように、次年度(令和5年度)に道計訪問のある中学校区の学級担任を対象に、道徳の授業づくりの研修会を行います。<br>(今年度実施:西陵中学校区・肥田中学校区)                                                                            |
|         | 人権教育に関わる研修               | 小中学校の教職員を対象に LGBTQ の当事者と交流する研修会を行い、人権教育について学びます。                                                                                                                         |
|         | ALT 研修会                  | ALT を対象にアシスタント指導力の向上を図るために、学習指導要領に即した指導方法や日本人教職員との協働について研修します。教職員も参加できます。                                                                                                |
|         | ★【新規】運動に親しむ資質・能力を育むACP講座 | 園や学校の教職員を対象に、ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)の実践スキルを身に付け、体育の授業などにACPを取り入れて実践できることを目的に、小学校に講師を派遣し、子どもと職員を対象とした研修講座を行います。                                                            |
| 児童・生徒講座 | 児童生徒能力開花応援事業             | 夏休み期間を使って小中学生を対象に講座を開きます。科学作品(7/2)、社会科課題追究(7/2)、新聞切り抜きコンクール(7/10)、イングリッシュキャンプ(小学校5・6年生…7/26、中学生…7/27)、風鈴づくり(7/9・23・30)・絵付け体験(8/8)<br>★【新規】英語スピーチ力アップ(8/2、8/17)を新たに開設します。 |
| 備品等購入   | ★【新規】プログラミング教材           | 中学校の技術科の学習で使用するプログラミング教材を全中学校に配備する予定です。                                                                                                                                  |
|         | ★【新規】新聞教材活用事業            | 社会への関心を高め、必要な情報を取捨選択し読み解く情報活用能力の育成を目的として、小学校3～6年生を対象に、社会科の学習や朝活動などの時間に iPad で活用できる「デジタル新聞教材(チュースク)」を導入します。                                                               |
| その他     | 市指定研究校                   | 【発表校】…駄知小、駄知中、土岐津中(東教推)、泉中(東教推)、<br>【中間報告校】…肥田小、肥田中、【初年指定】…土岐津小、土岐津中                                                                                                     |
|         | 作品展                      | ・科学作品・発明くふう・社会科作品展:9/3、4<br>・市美術展:10/28～30                                                                                                                               |





# 「先生だけは見捨てんかった」

土岐津小学校 教頭 山内 峰子

「おはよう！」→「うるっせーわ！」「おはよう！元気？」→「死ね！」…。両親がいなくて、祖父に育てられていたAくんと毎朝の会話。彼は、両親の温かさを知りません。常に反発した言葉が返ってきました。何とかAくんと接点をもてないかと声をかけ続けていました。しかし、彼から返ってくる言葉は、常にとがったものでした。さすがに「うっとおしいわ」「だまれ」と連呼されると、気持ちはへこみ苦しい気持ちになりました。その都度、センターの教育相談研修で教えて頂いた「未学習未学習」「彼は本来、こうなりたくなかったわけではない。とげとげ言葉は彼の傷つきなんだ。」と理解するようにしました。

数年経ち、彼と再会したのは、体育館工事の人を案内する時でした。「先生！！」聞き覚えのある威勢

のいい声で呼びかけてくれたのがAくんでした。当時から想像できないような大人の振る舞いができるようになったAくんは「おれ、中学の時、ひどかったなあ。あれとったわ。でも先生は俺がどんなひどいこと言っても見捨てず声かけてくれたよね」と言うのです。「ああよかった。本当は分かっていたのだ。」と思いました。

私たちの仕事は、即効性があるものではありません。すぐに答えが見つかる仕事でもありません。しかし、その時、伝わらないことでも、いつか分かってもらえる日が来ると信じ、その子が幸せに生きていけるよう関わり続けることが大事なんだ、と実感しました。心にたくさんの種をまいていくことができる自分であり続けたいと思います。

## 掲 示 板

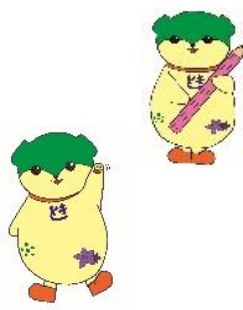
本年度もよろしくお願いします

### 【教育研究所】

|      |                    |
|------|--------------------|
| 所 長  | 河合 広映（教育次長）〈前列中央〉  |
| 主 任  | 安藤 律子 〈前列左〉        |
| 指導主事 | 板倉みゆき 〈前列右〉        |
| 〃    | 内海 優里（管理主事）〈後列中央左〉 |
| 〃    | 林 奨司 〈後列左〉         |
| 〃    | 杉浦 正佳 〈後列中央右〉      |
| 事務職員 | 伊藤のり子 〈後列右〉        |



【ALT】ウイリアム・スワン マデリン・アルマン  
ファントウィクス・アセナ・メガン



### 【浅野教室】



室長 小木曾寛美 相談員 加藤 千穂

### 編集 後記

「校長室の窓」と「幼稚園・こども園教育」「ICT 教育推進」のページを、今年度、新企画として掲載していきます。本号の「校長室の窓」では、『校長が変われば学校も変わる』と言われるように、各校長先生の校長としての信条や人となりを伺うことができると考えます。「ICT 教育推進」は、授業における ICT の具体的な活用場面を紹介していきます。今年度も「教育とき」を宜しく願います。